

半世紀での死因の変化 —統計資料でみる京都市の昔と今（その1）—

京都市には、100年以上前、明治42(1909)年に刊行された「京都市統計書」をはじめ、たくさんの古い統計刊行物が保管されています。今回は、その中から、ちょうど半世紀(50年)前、昭和36(1961)年3月刊行の、「京都市統計情報No.92」に掲載された記事「成人病予防について」に基づき、京都市における死因の変化をご紹介します。

なお、死因の分類は、厚生労働省作成の「死因分類表」によりますが、現在とは一部異なるため、項目によっては単純比較できない可能性があります。ご注意ください。

○主要死因の比較

まず、「京都市の主要死因の比較」と題された表に基づき、全体の傾向を比較します。

昭和34年中に亡くなった方が最も多かった死因は「脳血管疾患」で、次いで「悪性新生物」、「老衰」の順でした。一方、50年後の平成21年中に亡くなった方が最も多かった死因は「悪性新生物」で、次いで「心疾患(高血圧性除く)」、(以下「心疾患」といいます。), 「肺炎・急性気管支炎」の順となりました。

50年間で、割合が大きく変動した項目をみると、「結核」及び「老衰」が大幅に減少した一方で、「肺炎・気管支炎」、「悪性新生物」、「心疾患」は亡くなった方全体に占める割合がそれぞれ約2倍に増加しています。

また、平成22年まで全国の自殺者が13年連続で3万人を超えるなど、「自殺」が深刻な社会問題となっていますが、京都市では50年前に今よりも多くの方が自殺で亡くなられています。

○年齢階級別死因の比較

次に、「京都市の年齢階級別死亡順位」と題された表に基づき、年齢5歳階級別に、40歳以上の方の死因を比較します。

昭和34年の死因をみると、40歳から64歳では「悪性新生物」が、65歳から74歳では「脳血管疾患」が、75歳以上では「老衰」が、それぞれ最多となりました。一方、平成21年の死因をみると、40歳から44歳では「自殺」が、45歳から84歳まででは「悪性新生物」が、85歳以上では「心疾患」が、それぞれ最多となりました。

死因ごとにみると、昭和34年には40歳代に多かった「結核」と、70歳以上に多かった「老衰」は、平成21年にはランク外となりました。一方で、昭和34年にはランク外だった「自殺」は40歳代から50歳代前半で、同じく「肺炎」は80歳以上で、それぞれ3位内に入りました。

年齢階級別にみると、55歳から69歳では、割合や順位に変化があるものの、同じ死因(「悪性新生物」、「脳血管疾患」、「心疾患」)が上位を占めています。一方、その他の年齢階級では、死因や順位に変化がみられます。

表-2 京都市の年齢階級別死因順位

年齢階級	昭和34(1959)年						平成21(2009)年					
	第1位		第2位		第3位		第1位		第2位		第3位	
	死因	割合(%)	死因	割合(%)	死因	割合(%)	死因	割合(%)	死因	割合(%)	死因	割合(%)
40~44歳	悪性新生物	21.8	結核	18.2	不慮の事故	9.3	自殺	29.2	悪性新生物	22.5	心疾患	11.7
45~49歳	悪性新生物	24.5	結核	15.2	脳血管疾患	15.2	悪性新生物	41.1	心疾患	17.1	自殺	11.6
50~54歳	悪性新生物	26.4	脳血管疾患	18.4	心疾患	11.1	悪性新生物	41.1	心疾患	16.4	自殺	13.0
55~59歳	悪性新生物	28.4	脳血管疾患	19.5	心疾患	11.2	悪性新生物	49.8	心疾患	14.0	脳血管疾患	9.8
60~64歳	悪性新生物	26.6	脳血管疾患	18.9	心疾患	10.5	悪性新生物	50.1	心疾患	14.0	脳血管疾患	6.3
65~69歳	脳血管疾患	22.9	悪性新生物	21.2	心疾患	11.2	悪性新生物	51.5	心疾患	13.1	脳血管疾患	8.1
70~74歳	脳血管疾患	22.4	悪性新生物	17.8	老衰	12.3	悪性新生物	47.0	心疾患	13.7	脳血管疾患	7.8
75~79歳	老衰	24.8	脳血管疾患	23.7	心疾患	11.3	悪性新生物	39.1	心疾患	17.0	脳血管疾患	9.1
80~84歳	老衰	35.4	脳血管疾患	19.6	心疾患	9.4	悪性新生物	30.0	心疾患	16.7	肺炎	11.6
85歳以上	老衰	55.5	脳血管疾患	11.6	心疾患	4.8	心疾患	19.9	悪性新生物	17.5	肺炎	14.4

(注) 死因は平成21年の略称を使用しました。正式名称及び昭和34年の名称は表-1を参照してください。

表-1 京都市の主要死因の比較

死因	昭和34(1959)年		平成21(2009)年	
	死亡数(人)	割合(%)	死亡数(人)	割合(%)
総数	8,451	100.0	12,861	100.0
脳血管疾患【中枢神経系の血管損傷】	1,442	17.1	1,191	9.3
悪性新生物	1,375	16.3	4,048	31.5
老衰	958	11.3	367	2.9
心疾患(高血圧性除く)【心臓の疾患】	784	9.3	2,179	16.9
結核【全結核】	544	6.4	32	0.2
肺炎・急性気管支炎 a)	413	4.9	1,247	9.7
【肺炎及び気管支炎】				
不慮の事故	362	4.3	260	2.0
自殺	328	3.9	315	2.4
その他	2,245	26.6	3,222	25.1

(注) 死因は平成21年の名称を使用し、昭和34年の名称が異なる場合は【】に入れて併記しました。

a) 昭和34年と比較するため、「肺炎」及び「急性気管支炎」を合計した値としています。